

おっかん のまじい④

4



謡犬 ヌネ



ゆめのおくで、ひとやすみ…

夜みる夢の 奥の世界

へんてこだらけの星々のあいだに、
小さな島が 浮いていました。

彷徨うものをどこかへ運ぶ 鳥の群れ
彼らが立ち寄る 小さな家

これはそこに住む
小さなお茶汲み君の
おはなしです…



きゃらくたーず



← ツモル やわらかマイペースな主人公



← ハチ ツモルになつく筋肉獣人さん



← ノット ランプに住む幽体魔法使い

それでは、
ゆる夢的
ふしぎひと休み…







つものつぶ

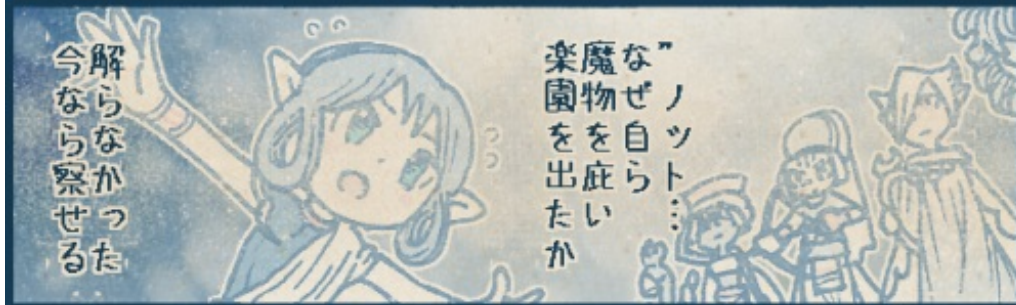


そらのひとつぶ



夢奥の空 どこか
ツモル達を思う
ノットさんです。

彼ら
元気かなあ



”ノット：
なぜ自ら
魔物を庇い
楽園を出たか

解らなかつた
今なら察せる



何故あのとき、
憂いをほぐして
やれなかつたらう”

【**牧草**の種が宿る音
巨獣聴いている



おじさんに
ちーず
届けよう♪

迷宮の
ひととき
です。

うろほろごころ



きびし
だけと
なんし
あ。

はまっ
はまっ

とこ
ろで
道合
つて
るの
か？



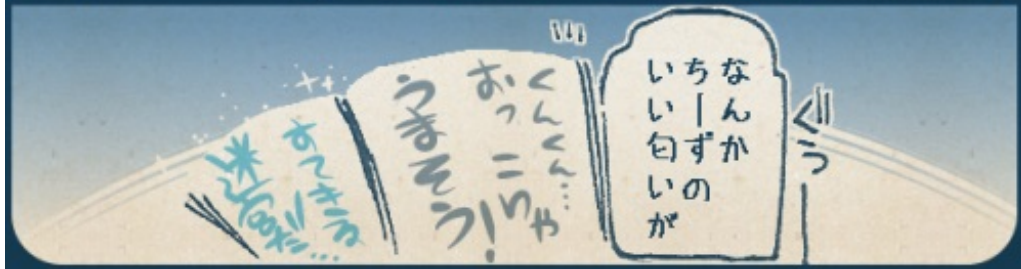
夢の
獣の
迷宮
によ
ろ歩
くろ
ず
獣に
運ぶ
もの
鳥へ
の安
全な
んだ
らう
？



ツモ
ル脳
裏に
あり
あり
と浮
かぶ
影

（捨て
られた
布の
くま
巨獣
の声
伝える

そう
だっ
たな
らそ
れも
抱え
僕は
翼使
にな
りたい
んだ



いち
い白
いの
が

おん
きん
うろ
ほろ
ごこ
ろ





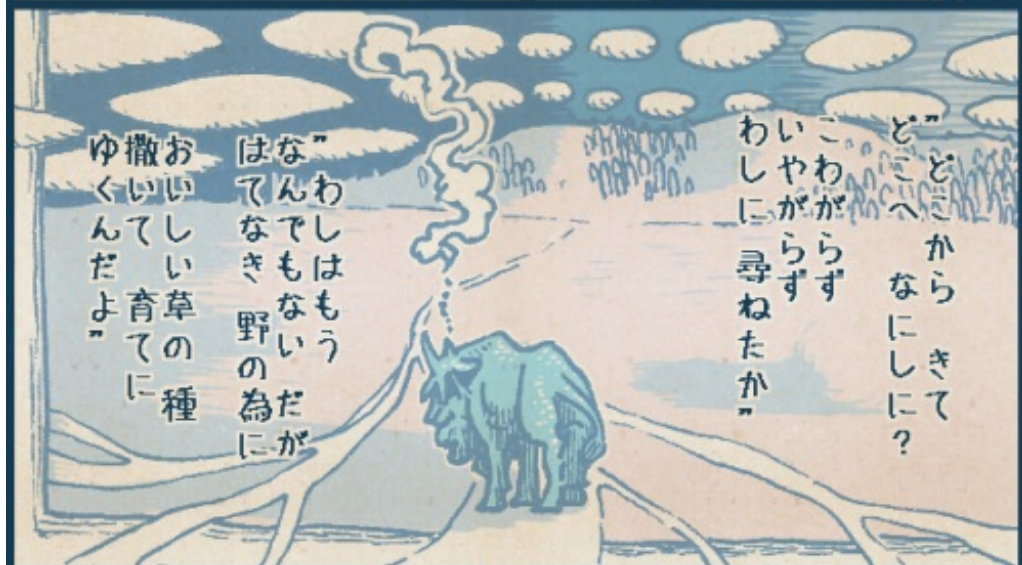
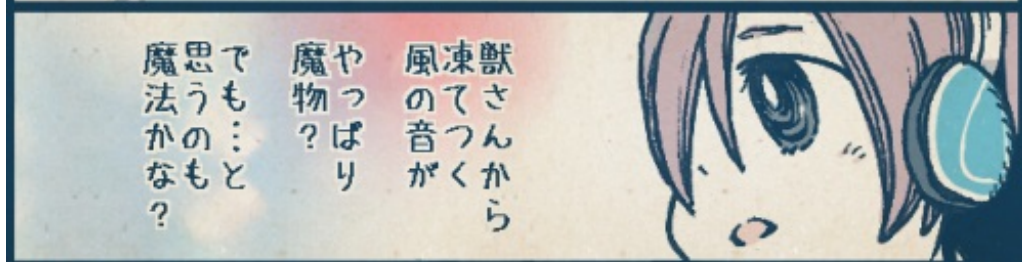


まのあたり





つもるみあげる





ほころびとか



まだ何も
解らない
の！

獣さんが
運ばれる

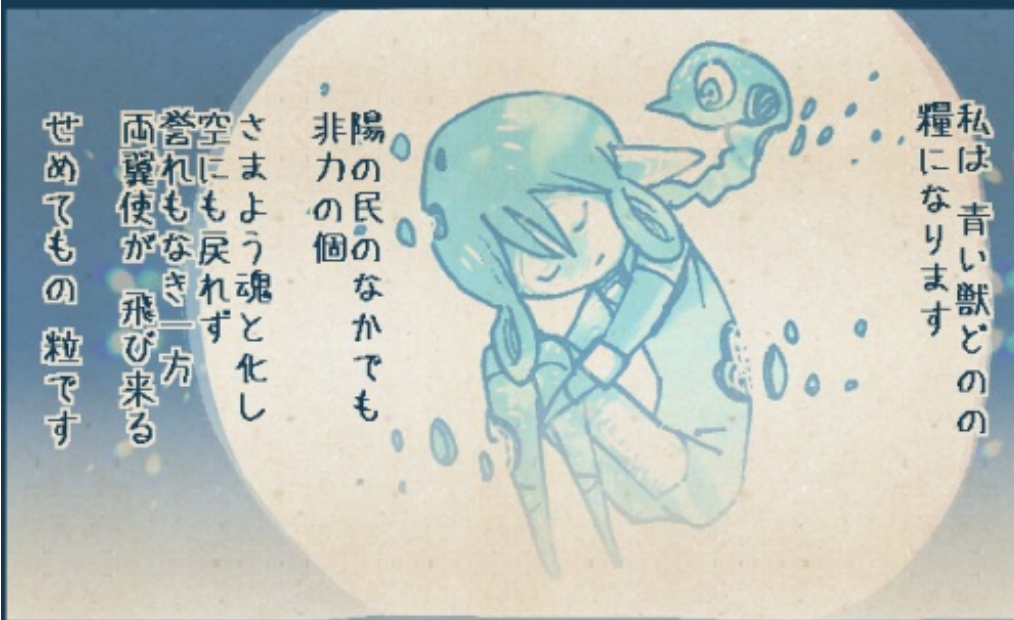
かりへん
だっ



ツモル君
きみらは私
逃がします
私が行け
ない

えっ？

ノットさん
どうして？



私は青い獣
どのの
糧になります

陽の民のなか
でも
非力の個

さまよう魂と
化し
空にも戻れ
ず
蒼れもなき
一方
両翼使が
飛び来る
せめてもの
粒です



凍って
きんこ

カチ

くまとつもる

”おいちたち
どこの町で
それをみたよ”

”きみくま
だつたね”

ぬいぐるみ
だったね
積み重ねたまま
捨てられてた

でもその色
確かには

よく覚えて
いたから
彷徨ってる

残ったのは
くま達だけ…

皆 幸がいいさ
でも効き目
どうかいな？

「かわいい
お友達だよ
幸せ呼んで
くれるんだ！」

旅の手品師が
楽しみに



あゝ
ことか
つう

つもるは
つもるだ!!









いかるもの

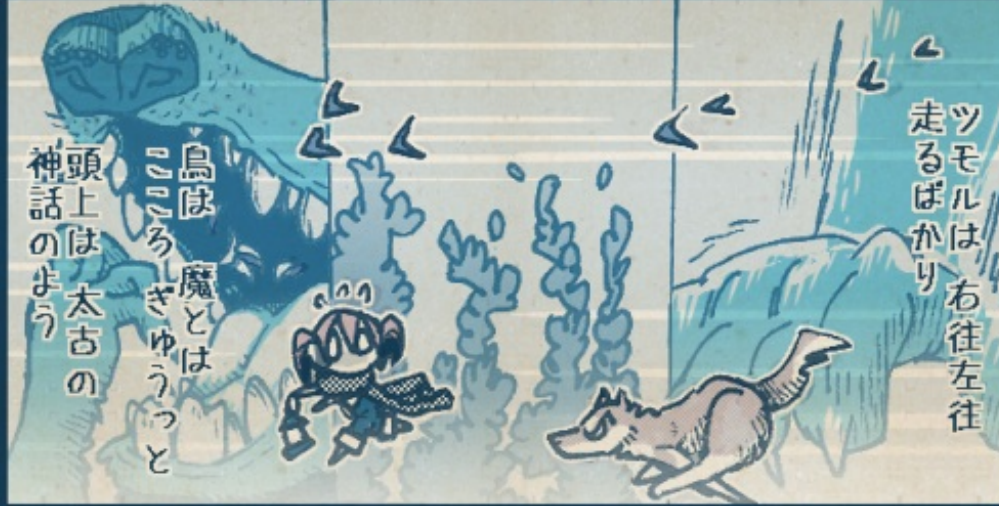


憂いの獣さん
吼えています。



翼使や旅人を迎え
韋にして食すこと
魔獣を撃つこと
魂運び去ること

怒りはかなしみ
誰かには恐れ
誰かには鎮め
それがぐるぐる
飛び交っている



ツモルは右往左往
走るばかり

鳥は魔とは
こころぎゆうつと
頭上は太古の
神話のよう



“むなしや”

走る背に
誰かの声
響きました。



あおのはな

憂いの迷宮
地鳴る 足踏み
焦るほど
へんてこ道...

ハチ逃げて!
きみだけ
なら...

おれがだっ
行かす!!

おぼろげな...

青い花
羽飾りの様な

みずみずしく
印象で呼んでる

ようし
輪も
摘もう。

おぼろげな...

やみまのくま

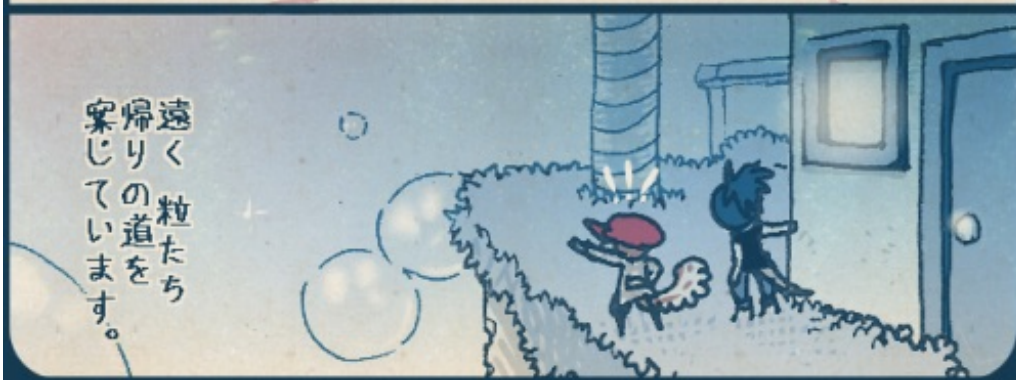


ツモルとハチ
気づけば
こんなでした。



ここは憂いの獣の
おなかの中

遊んで鳴らす音
泳ぐ木のおもちや



遠く粒たち
帰りの道を
案じています。

こうしのたび

声たよりに
その先
定れかが



憂う魔に
迷い道
また



もうね
でも
おれはもう
いかなくちや



ぬくもり
におい
わすれないよ

永遠の瞬間
黒犬魔法の
滋養を与えた

誰が指差しし
嘆えただろう

他の仔と
違って生まれた
その仔には
その仔の旅



わが
兄弟よ...



君の駆ける
野がある
草食らい
駆けよ



くま と ムフト

ここは
青魔が腹の
ほんのはじめ

「なぜいま
ここだろう？」
風が声運ぶ

くまは歩
道の今は
もう歩ける

わあいい
茶葉！
摘んでこうっ

飛立ち運び
その姿
見せてくれた

翻翼
ムフトさん
少々ちやっかり
翼使の仲間

その
向こうまで

だから
きつと



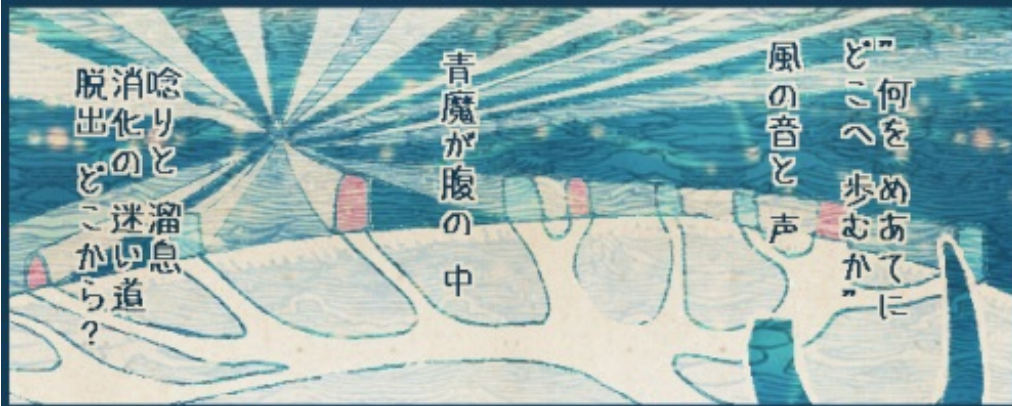




11月分まで...



かげのひなた









おもかげのはら







さらなるはね

くまツモル
ぐるぐる中…

今こそ翼使に
ならなけりや…!!

どいてな!
呑まれても 翼使
あたしらが運ぶっ

月が運ばぬ
うちに破邪せよ!
内から清めるのだっ

猛風 鳴ってる
魔の外 中でも
飛び交う 鳥たち

それを掴み 呑む獣
どこか いとしげに

問い させて置き、
皆 いちずに
飛び 食らう

魔でも
循環の担い手でも

しましたとら
◎42中…

は茶は茶
は茶は茶
は茶は茶



うしかいわ



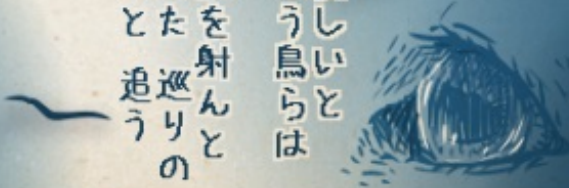
かぜとみず

凍る地 波れど
青き獣に
宿る野の無く

うれいを
食えど
うれいの
無くなる
ことも無く



美しいと
思う鳥らは
獣を射んと
また巡りの
粒と追う



ツモルも似た子
だがそうか

この子は 惑いの
正体 感づいていた



それでも 怖くとも
憧れと 役割を胸に
ずつと コーンまで
参ったのだな

獣さんも
ツモルも 道
温かな一杯
色々な粒が
入っています。







つもみやく

憂いの獣の
腹のなか



ツモルの頭にも
何やらのびて
きました。

「ツモル
なツモル」

「おれが
いる
おまえだ
って」

「いいか
生物は
姿と
方法
がある
んだ」



おまえの姿
おまえの方法

それが
これだけ
の粒と
響きあ
ったじ
やない
か





お茶いっぱい

青魔の外
食べすぎ？
喉が渴いた
獣さん

青魔の内
ぼんやり
少し新たな
野の香
その
眠い眼の先

温かいお茶
いっぱい
癒えず終わらぬ
彷徨を背負い
問いの食らいの
歩に はじめて

はげっ



よいとあけ

陽と月
運び手たちを
おむかえ 2羽



双子の兄妹

粒 巡らすため
雲間 別れて
群れを遣わす
多く飛び立ち
運べたものは
粒 それでも



夢奥
魔法が最後に
またたえず
息づくところ

その魔法が
手に負える
者は少なく
流動の変化は
あらゆる者に
それでも翼使は
飛んでいきます。

我が兄姉
妹とは
違うなあ

やどうだろ

ねおその
見回りは？

とつかこれ以上
増やすなっ





ノットるろう

へんてこたち
お話しています。



夢奥
惑星海の
どこか



皆に挨拶も
マダだろう？
旅なら新たな
衣装もさ…

君 羽の痛みを
隠してたでしよう？”

”そうだ 先ほど
『翼使の浄化装置』
伝え聞いたのです”



”逃げぬ今なので
僕は獣どのと共に
陽は眩しすぎ
月は悩ましすぎる
変物の身なればこそ”

”月の方にも
伝え
羽繕い
忘れずに
ルシノ…
ではまた”



よくしとかぜ

翼使とツモル
運ぶ空は
猛風です。

ツモルは
離すなよ
運ぶの灯
ツモルは

翼と灯り
2つを同時
に難し
い

うう…
はいっ！

羽音 かさなり
なりたかった
遠い鳥群
言葉交わす 俟に

おーい
ツモルーっ

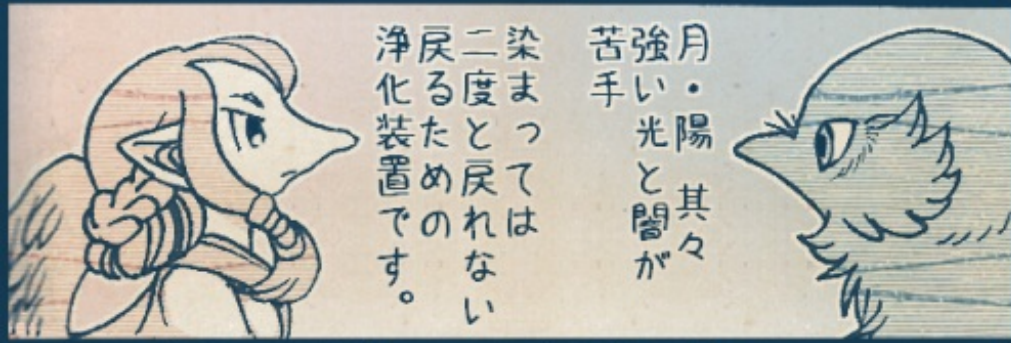
木



おそうじ そうち



一方、こころは
陽の翼使の巢
何かの装置
造られました。



月・陽 其々
強い光と闇が
苦手
染まっつては
二度と戻れない
戻るための
浄化装置です。



改善
必要かも

麗しき光：
覚え飛ばん
今日の陽を

あれっ
にわとり君。

おほおほ

あかりぶんせき

月の翼使たち

やっと本拠地に
着きました。

ついでに！
おっさ！あい！

ひと休みと、
ツモルの灯り
の分析…

おっさ！

こりや君：初期
翼使の品だぞ！
元は伝説の
白黒の魔犬の
作とかわ

なんだっぞ！！

いやは君
のコレ

えーと
島の庭にあり
友人の家と
なつてて…

おっさ！
あい！

おつかい そして... [☆]





まちがえて作った、9月分まとめのはじめのページです。ごめん、くまさんや！



365を描き始める前に描いた、ツモルくん。何やらはろういーん寄りの雰囲気...



はじめのころのハチさん。赤いなあ... そして、やんちゃ度が高そうです。



はじめのころのノットさんです。寒い地方的な帽子...そして、ヒレ。



初期の憂いの獣さん。憂いの妖怪とミノタウロス（アステリオス）さんなどから、このおかたになりました。

おまけ3 つもる てい～・しーずんず

1.

ツモル：今日は摘んでねかせておいたお茶です。

砕いた木の実もいれてみました。

ハチ：ん～、香ばしくてうまい。

鳥a：香りもよいねえ。落ち着くなあ

鳥b：...なんかさっきから巨大生物の息遣いがっ

青い獣：（ツモルまたうまそうな茶 淹れとる...）

2.

ツモル：さあ、きょうの紅茶、なにが入っているでしょうか。

ハチ：はい！茶葉！うおおーん！

鳥a:ええとあーと、飴か何か...かな？

キラキラした青い人影：甘美なる陶醉。

鳥b：みかん味のなにかじゃろうか

ツモル：おいしい！オレンジ味のジャムでした。りんごのも少し。

鳥c：いまっ...何か混じってたような...



おつかいツモル ④

<http://p.booklog.jp/book/110071>

ツモルくんのお話も、また こんどです。

”ヘンテコすぎる世界を歩き 知り、新発見的再発見し
せつなかつたり 怖かつたり 嬉しかつたりしつ
日々の旅をしていく、変わり者かつ 理想の粒を持つ子”

”日常からみる非日常は、非日常では日常”

は、毎年のお話に込めたいっ ことです。

ツモルたちは、ゆめみて飛んだ なつのむし なのやも？
ああでも、今思えば、もっとこうできたかも的な部分もっ...

ココの粒 残りつつ はなちつつ、
来年のお話もしっかり描いてゆきます！

(次のまとめ本は、日曜日のきゃらずのと 12月の犬先生達のこたつもの！
どちらも、2016年12月末～2017年1月初めにup予定です。)

著者：謡犬 ユネ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/110071>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/110071>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ